

森林・山村多面的機能発揮対策

採択申請関係様式等記入例

- 採択申請書【様式第 12 号】
- 活動計画書【様式第 11 号】
 - ・ 計画図（例）【様式第 11 号：添付書類】
- 実施に関する協定書（例）【様式第 10 号】
- 作業安全のための規範（チェックシート）【様式第 12 号：添付書類】
- 交付決定前着手届

(様式第 12 号)

番 号
令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島県森林・山村多面的機能発揮対策
地域協議会 会長 〇〇 〇〇 殿

〇〇の森保全の会
代表 〇〇 〇〇 印

〇年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金に係る採択申請書

森林・山村多面的機能発揮対策実施要領（平成 25 年 5 月 16 日 25 林整森第 74 号林野
庁長官通知）別紙 3 の第 5 の 4 （1）に基づき、下記のとおり森林・山村多面的機能発
揮対策交付金の採択を申請する。

記

1. 活動組織名

〇〇の森保全の会 活動組織の名称を記載

2. 協定の対象となる森林の位置

対象森林の地番を記載する。なお、対象森林は「山村多面的機能発揮対策実施要領」第 2 の 1 の森林を対象
とするが、当該森林が当該事業実施に対して規制がない森林であることを確認する。

〇〇県〇〇市〇〇町大字〇〇 〇〇〇番地、〇〇〇番地

3. 担当者名・電話番号（連絡がとれる担当者及び電話番号を記載）

〇〇太郎・090-〇〇〇〇-〇〇〇〇

4. 森林・山村多面的機能発揮対策交付金 (活動1年目の例)

取組メニュー	交付単価等	森林面積等	交付金額	都道府県の支援額	市町村の支援額	計
活動推進費	112,500円	初年度のみ	112,500円	円	円	112,500円
地域環境保全タイプ(里山林保全)	最大 120,000円 /ha	2.0ha	240,000円	円	80,000円	320,000円
地域環境保全タイプ (侵入竹除去・竹林整備)	最大 285,000円 /ha	0.5ha	142,500円	円	47,500円	190,000円
森林資源利用タイプ	最大 120,000円 /ha	0.7ha	84,000円	円	28,000円	112,000円
森林機能強化タイプ	800円/m	90m	72,000円	円	18,000円	90,000円
関係人口創出・維持タイプ	50,000円 /年					
小計			651,000円	円	173,500円	824,500円
資機材・施設の整備等	1/2以内	100,000円	50,000円	円	円	円
資機材・施設の整備等(林内作業車、薪割り機、薪ストーブ又は炭焼き小屋等)	1/3以内	170,000円	56,000円	円	円	円
計			757,000円	円	173,500円	930,500円
間伐等(除伐、枝打ちを含む。)の実施面積		2.7ha				
当該年度に長期にわたり手入れをしていなかったと考えられる里山林を整備する面積		3.2ha				

(注1) 面積は0.1ha、延長はm単位で記入。

(注2) 当該年度に長期にわたり手入れをしなかったと考えられる里山林を整備する面積は、活動期間内の前年度までに該当する里山林の整備を実施した場合は、その森林の面積を除外し、当該年度に新たに里山林の整備を実施する面積を記載すること。

(注3) 都道府県の支援額、市町村の支援額及び計については、申請時に都道府県や市町村から予定額を聞いている場合等に記載すること。

(注4) 地域環境保全タイプ及び森林資源利用タイプの交付単価は、活動計画の経過年度によって異なるので留意すること。

※資機材・施設の整備については、森林面積等の欄に購入予定額を記載し、交付金額は購入予定額に交付率を乗じた金額(千円未満切り捨て)以内を記載。また、資機材等の見積書を添付。

5. 事業費(活動推進費+各タイプ計+資機材・施設の整備(購入額))

112,500+240,000+142,500+84,000+72,000+100,000+170,000 = 921,000円

6. 月別スケジュール

取組内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 活動推進費			←→									
			対象森林の調査、打合せ									
2. 実践活動												
A-1 地域環境保全タイプ （里山林保全）						←→						
						雑草木の刈払い						
						←→						
						雑草木の集積・処理						
								←→				
								作業委託（雑草木の刈払い・処理）				
A-2 地域環境保全タイプ （侵入竹除去、竹林整備）										←→		
										侵入竹の除去・処理		
B 森林資源利用タイプ							←→					
							間伐・炭焼き体験実施（教育・研修活動タイプと組み合わせ）					
C 森林機能強化タイプ								←→				
								作業道の作設・補修				
D 関係人口創出・維持タイプ												
3. 資機材・施設の整備等				←→								
				チェンソー2台（10万）								
				←→								
				薪割り機（17万）								

7. 安全講習等の名称及び内容

講習の名称	講習の内容	実施月
〇〇〇〇講習	講師を招き、対象森林内において間伐方法や伐採木の搬出方法等の森林施業技術に関する研修を実施する。	〇月
〇〇〇〇講習	刈払い機、チェーンソー等動力機械の使用に関しては、初めて扱う者には事前講習を実施する。	〇〇月

(注) 安全講習等は、対象森林内で実施するものを記載すること。

8. 関係人口創出・維持タイプの相手先及び活動内容

【地域外関係者の相手先名】
【活動内容】

注) 地域外関係者との現地確認や活動内容の調整を必ず行うこと。

<施行注意>

作業安全のための規範（個別規範：林業）事業者向けチェックシート、活動計画書、協定及び活動組織の運営に関する規約等を添付するものとする。

※「農林水産業・食品産業の作業安全のための規範（個別規範：林業）事業者向けチェックシート」については林野庁 HP に掲載されています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/seisankakou/anzenkiban.html>

(様式第 11 号)

活 動 計 画 書

< 記載例 >

令和〇〇年〇〇月〇〇日策定

令和〇〇年〇〇月〇〇日変更

(※継続の場合で変更がある場合)

〇〇の森保全の会

森林・山村多面的機能発揮対策交付金に係る活動計画書

1. 組織名 活動組織の名称を記載

〇〇の森保全の会

2. 所在地 活動組織の所在地を記載

〇〇県〇〇市〇〇 1-2-1

3. 地区の概要、取組の背景等 対象地区の概要、取組に至る背景等を記載

〇〇市〇〇地区は・・・により、集落で先祖代々守り続けている〇〇の森が荒廃してきた。このため、地域住民（〇人）とNPO法人〇が「〇〇の森保全の会」を設立し、〇〇の森を整備し、間伐体験や炭焼き体験を開催し、地域住民と都市住民の絆の森とし、地域の活性化を進める。

4. 取組概要

〇〇地区にあるクヌギ、コナラを中心とした広葉樹林について〇〇の森保全の会メンバーによる雑草木の刈払い、集積、処理場までの運搬を実施し、整備後に〇〇を植林、遊歩道の整備（一部急峻フィールドについては作業委託を実施。0.5ha）する。

また、一部のフィールドにおける孟宗竹の除去を実施し、チップパーによる処理後遊歩道へ敷設する。森林資源活用タイプの活動では、フィールド内の0.5haから炭及び薪ストーブ用の原木の間伐を行い、継続的な森林整備活動の一助とするために地域内外の住民に販売する。

5. 構成員の概要 活動組織がどのような構成員からなっているかを記載

※構成員の居住地（どのような地域から参加しているか）、職種、経歴、所属団体等、構成員の多様性がわかるように記載すること。

〇〇の森保全の会は、主に〇〇市〇〇地区の住民が集まった組織であり、構成員40名のうち35名が同地区の住民である。その他の構成員は〇〇市内他地区が4名、県外1名となっている。本活動組織は地域の住民を核に作られた組織であるため職種は林業、自営業、事務等様々であり、所属団体については、森林関係のNPOに所属している者が10名、環境保全に関する市民団体8名などからなる。

6. 地元の自治体、自治会、集落等のニーズに対応するなど地域の活性化への寄与

地元自治会で〇〇の森の荒廃が問題視されており、自治会の中から有志で〇〇の森保全の会を立ち上げて森林整備を行う。

〇〇の森は市有林であり、財政状況が厳しい中で、市でも十分な管理が行えていない場所であることから、市の方からも協定を結び、地域住民で管理をして貰えるのであればありがたいとの声をいただいている。

7. 年度別スケジュール

取組概要	〇〇年度		〇〇年度		〇〇年度	
1. 活動推進費	林況調査及び活動についての詳細な打合せ					
2. 実践活動						
A-1 地域環境保全タイプ (里山林保全)	雑草木の刈払い、集積、処理	2.0 ha	雑草木の刈払い等保全管理	2.0 ha	雑草木の刈払い等保全管理	2.0 ha
A-2 地域環境保全タイプ (侵入竹除去、竹林整備)	侵入竹の除去、チップ処理	0.5 ha	侵入竹の除去、チップ処理	0.5 ha	侵入竹の除去、チップ処理	0.5 ha
B 森林資源利用タイプ	炭焼き・薪原木の伐採（空間利用と組み合わせ）	0.7 ha	炭焼き・薪原木の伐採（空間利用と組み合わせ）	0.7 ha		ha
C 森林機能強化タイプ		ha		ha		ha
	作業道の作設・補修	90 m		m		m
2-1. 間伐等（除伐・枝打ちを含む）実施面積		2.7 ha		2.7 ha		2.0 ha
2-2. 活動を始める時点で長期にわたり手入れをされていなかったと考えられる里山林を整備する面積		3.2 ha		ha		ha
D 関係人口創出・維持タイプ						
3. 資機材・施設の整備等	チェーンソー2台 薪割り機1台		薪ストーブ1台設置			

※1 延長には森林調査・見回りを除く。

※2 2のCの森林機能強化タイプの森林面積については、スケジュールの期間内に地域環境保全タイプ又は森林資源利用タイプにより森林整備を実施する面積を記載する。

※3 2-2については、2年目以降はその前年度までの活動により該当する里山林の整備を実施している場合はその里山林の面積を除外し、その年度に新たに該当する里山林の整備を実施する面積を記載する。

※4 2のDの関係人口創出・維持タイプについては、年度毎の実施内容を記載する。

8. 活動の目標と活動結果を測定するためのモニタリング調査方法（地域環境保全タイプ及び森林資源利用タイプについて記載）

タイプ名	目 標	モニタリング調査方法
里山林保全	里山の高大木、大径木を育成する。	調査区内の総体幹距比を測定する。 (樹高、木の本数)
里山林保全	希少種、あるいは里山の指標種を保護する。	調査区内の目標対象種(〇〇〇)の個体数を確認する。
侵入竹除去・竹林整備	繁茂したモウソウチクを完全駆除する。	調査区内の生立本数、再発本数を測定する。
森林資源利用	木質資源を持続的に生産し、利用する。	森林から搬出され利用される木質資源の量を確認する。

(注) 目標の設定及びモニタリング調査方法の記載については、別に定めるガイドラインを参考とすること。

9. 年度別に実施する安全講習等の名称及び内容

年 度	講習の名称	講習の内容
令和〇〇年度	〇〇〇〇講習	講師を招き、対象森林内において間伐方法や伐採木の搬出方法等の森林施業技術に関する研修を実施する。また、刈払い機、チェーンソー等動力機械の使用に関しては、初めて扱う者には事前講習を実施する。
年度		
年度		

(注) 安全講習等は、対象森林内で実施するものを記載すること。

10. 安全のために装備する物品及び傷害保険の名称

ヘルメット、チャップス、防振手袋、
林地内での作業やイベントを実施する場合には、稼働場所の安全確認等を行い事故の未然防止に努めるとともに、活動者等に対して傷害保険の加入など、安全性の確保を図る。〇〇保険

11. 4年目以降の活動（森林管理）計画

4年目以降も〇〇の森の保全管理を継続して実施。また、近隣の都市住民からも幅広く維持活動に協力していただける活動を継続し、地域の里山を維持・発展させる予定。

12. 計画図（協定の対象としている区域の図面）

取組の実施箇所の森林計画図を添付すること。森林計画図がない場合は、対象森林の面積が分かる縮尺5,000分の1以上の図面を添付すること。添付した図面に、計画期間中の各タイプの活動内容及び森林経営計画の策定の有無を図示すること。また、森林機能強化タイプにおいては、改修等を実施する路網や鳥獣被害防止柵を図示すること。

1 3. 持続性向上に向けた取組

自治会等にも協力を仰ぎながら若年層の参加を促し、地域の里山を守る意識の醸成を図っていく。
また、森林資源利用タイプにより搬出した木材による炭の生産販売や、将来的にはシイタケ栽培を開始し、自立した活動組織による継続した里山林保全活動を行う。

※ 活動する人材の育成や確保、活動経費の確保など、活動組織が本活動計画終了後も活動を継続していくために行おうとする取り組みについて記載する。

1 4. その他

(1) 写真

取組の実施箇所に長期にわたり手入れをしていなかったと考えられる里山林がある場合はその写真を添付すること。

(取組が必要な作業)

除伐作業等



(2) 収入

会費、林産物収入など森林・山村多面的機能発揮対策交付金以外の収入を記載すること。

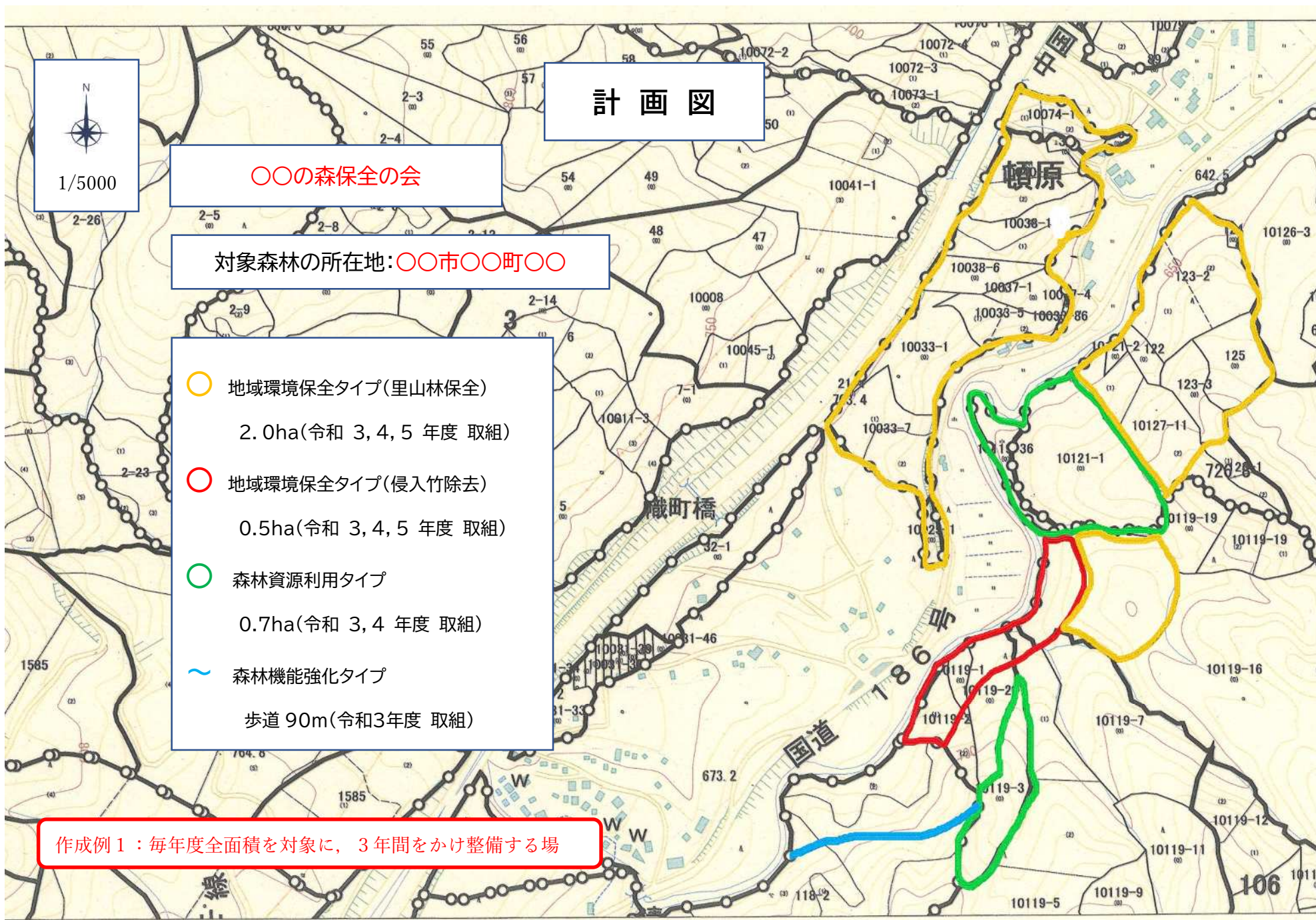
- ・年会費〇〇〇円を徴収する。
- ・生産した炭の販売収入約〇〇〇円を、会の運営費に充てる。

(3) 委託

取組を委託する場合は、次を記載すること。

活動計画における取組についての委託

- ・委託機関名
〇〇森林組合
- ・連絡先（電話番号等）
〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
- ・委託時期
〇〇年〇〇月
- ・委託内容（委託する区域の林小班、委託業務の内容（面積、作業の内容）等）
急峻な〇小班の刈払い及び処理作業
- ・委託金額
200,000円



計画図

1/5000

〇〇の森保全の会

対象森林の所在地: 〇〇市〇〇町〇〇

- 地域環境保全タイプ(里山林保全)
2.0ha(令和3年度 0.3ha 取組)
(令和4年度 0.7ha 取組)
(令和5年度 1.0ha 取組)
- 地域環境保全タイプ(侵入竹除去)
0.5ha(令和3,4,5年度 取組)
- 森林資源利用タイプ
0.7ha(令和3,4年度 取組)
- ~ 森林機能強化タイプ
歩道 90m(令和3年度 取組)

4年度取組

5年度取組

3年度取組

作成例2: 里山林保全については、地区毎に毎年度整備完了させる場

(様式第 10 号)

森林・山村多面的機能発揮対策交付金の実施に関する協定書 (例)

森林・山村多面的機能発揮対策実施要領（平成 25 年 5 月 16 日 25 林整森第 74 号林野庁長官通知）に基づき、〇〇の森保全の会と森林所有者は、下記のとおり協定を締結する。

記

(目的)

第 1 条 この協定は、地域の森林・山村の多面的機能の発揮のための活動（以下「活動」という。）が円滑に実施できるよう、その内容等について定めることを目的とする。

(協定期間)

第 2 条 地域共同による活動の協定期間は、協定締結の日から令和〇年〇月〇日までとする。
協定期間は原則 3 年間とする

(協定の対象となる森林)

第 3 条 協定の対象となる森林は、以下のとおりとする。

所在地 〇〇県〇〇町大字〇〇 〇〇〇番地 対象森林の地番を具体的に記載する

面積 〇〇.〇ha 対象面積を記載する。

計画図 別紙の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金に係る活動計画書」の 12 に定めるとおりとする。

(森林経営計画の確認等)

第 4 条 森林所有者は協定締結後に協定の対象となる森林において、森林経営計画を策定しようとする場合又は立木の伐採や森林の転用等を行おうとする場合は、〇〇の森保全の会と事前に協議するものとする。

2 協定の対象となる森林において活動計画の期間中に森林経営計画が策定された場合であっても、前項後段の立木の伐採や森林の転用等を行おうとする場合の事前協議に関する規定及び第 6 条の規定は有効とする。

(活動計画)

第 5 条 〇〇の森保全の会が行う活動は、別紙の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金に係る活動計画書」の 7 に定めるとおりとする。

(その他)

第6条 この協定に定めのない事項、又は疑義が生じた場合には、〇〇の森保全の会と森林所有者が協議をして定めるものとする。

上記協定の締結を証するため、〇〇の森保全の会と森林所有者は、本書を作成し、記名の上、それぞれ1通を保有するものとする。

令和〇年〇月〇日

〇〇の森保全の会

住所 〇〇県〇〇町〇〇〇〇 〇〇-〇

代表 〇〇 〇〇 印

住所 〇〇県〇〇町〇〇〇〇 〇〇-〇

〇〇 〇〇 印

住所 〇〇県〇〇町〇〇〇〇 〇〇-〇

〇〇 〇〇 印

住所 〇〇県〇〇町〇〇〇〇 〇〇-〇

〇〇 〇〇 印

農林水産業・食品産業の作業安全のための規範（個別規範：林業）

事業者向け チェックシート

令和3年2月26日

林野庁

事業者名	〇〇の森保全の会
記入者 役職・氏名	〇〇 〇〇 〇〇
業種 (○を付ける。複数選択可)	素材生産 / 造林・保育 / その他(森林整備等)
雇用労働者の有無	有 / 無
記入日	令和 〇〇 年 〇〇 月 〇〇 日

現在の取組状況をご記入下さい。

具体的な事項		○:実施 ×:実施していない △:今後、実施予定 -:該当しない
1	作業安全確保のために必要な対策を講じる	
1-(1)	人的対応力の向上	
1-(1)-①	作業事故防止に向けた方針を表明し、具体的な目標を設定する。	
1-(1)-②	知識、経験等を踏まえて、安全対策の責任者や担当者を選任する。	
1-(1)-③	作業安全に関する研修・教育等を受ける。また、作業安全に関する最新の知見や情報の幅広い収集に努める。	
1-(1)-④	適切な技能や免許等が必要な業務には、有資格者を就かせる。	
1-(1)-⑤	職場での朝礼や定期的な集会等により、作業の計画や安全意識を周知・徹底する。	
1-(1)-⑥	安全対策の推進に向け、従事者の提案を促す。	
1-(2)	作業安全のためのルールや手順の順守	
1-(2)-①	関係法令等を遵守する。	

具体的な事項		○:実施 ×:実施していない △:今後、実施予定 -:該当しない
1-(2)-②	高性能林業機械やチェーンソー等、資機材等の使用に当たっては、取扱説明書の確認等を通じて適切な使用方法を理解する。	
1-(2)-③	作業に応じ、安全に配慮した服装や保護具等を着用する。	
1-(2)-④	日常的な確認や健康診断、ストレスチェック等により、健康状態の管理を行う。	
1-(2)-⑤	作業中に必要な休憩をとる。また、暑熱環境下では水分や塩分を摂取する。	
1-(2)-⑥	作業安全対策に知見のある第三者等によるチェック及び指導を受ける。	
1-(3)	資機材、設備等の安全性の確保	
1-(3)-①	燃料や薬剤など危険性・有害性のある資材は、適切に保管し、安全に取り扱う。	
1-(3)-②	機械や刃物等の日常点検・整備・保管を適切に行う。	
1-(3)-③	資機材、設備等を導入・更新する際には、可能な限り安全に配慮したものを選択する。	
1-(4)	作業環境の改善	
1-(4)-①	職場や個人の状況に応じ、適切な作業分担を行う。また、日々の健康状態に応じて適切に分担を変更する。	
1-(4)-②	高齢者を雇用する場合は、高齢者に配慮した作業環境の整備、作業管理を行う。	
1-(4)-③	安全な作業手順、作業動作、機械・器具の使用方法を明文化又は可視化し、全ての従事者が見ることができるようにする。	
1-(4)-④	現場の危険箇所を予め特定し、改善・整備や注意喚起を行う。	
1-(4)-⑤	4S(整理・整頓・清潔・清掃)活動を行う。	
1-(5)	事事故事例やヒヤリ・ハット事例などの情報の分析と活用	

具体的な事項		○:実施 ×:実施していない △:今後、実施予定 -:該当しない
1-(5)-①	行政等への報告義務のない軽微な負傷を含む事故事例やヒヤリ・ハット事例を積極的に収集・分析・共有し、再発防止策を講じるとともに危険予知能力を高める。	
1-(5)-②	実施した作業安全対策の内容を記録する。	
2	事故発生時に備える	
2-(1)	労災保険への加入等、補償措置の確保	
2-(1)-①	経営者や家族従事者を含めて、労災保険やその他の補償措置を講じる。	
2-(2)	事故後の速やかな対応策、再発防止策の検討と実施	
2-(2)-①	事故が発生した場合の対応(救護・搬送、連絡、その後の調査、労基署への届出、再発防止策の策定等)の手順を明文化する。	
2-(3)	事故時の事業継続のための備え	
2-(3)-①	事故により従事者が作業に従事ができなくなった場合等に事業が継続できるよう、あらかじめ方策を検討する。	

(様式第8号)

番 号
令和〇〇年〇〇月〇〇日

広島県森林・山村多面的機能発揮対策
地域協議会 会長 〇〇 〇〇 殿

〇〇の森保全の会
会長 〇〇 〇〇 印

令和〇年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金採択決定前着手届

森林・山村多面的機能発揮対策実施要領の別紙3の第5の7の規定に基づき、別記条件を了承の上、下記のとおり提出します。

記

1. 事業費 〇, 〇〇〇, 〇〇〇円
2. 活動組織名 〇〇の森保全の会
3. 着手予定年月日 令和〇〇年〇〇月〇〇日
4. 交付決定前の着手を必要とする理由

地域環境保全タイプの竹林整備を行うに当たり、4月下旬のタケノコが発生・成長する前に竹林の下層木や枯損竹の除去等作業環境条件を整備する必要があるため。

※着手予定年月日は、地域協議会が活動組織の採択申請書を審査し、採択する団体を決定した日以降とする。

(別記条件)

1. 採択決定を受けるまでの期間に天災等の事由によって実施した施策に損失を生じた場合はこれらの損失は採択決定前着手届けを提出した活動組織が負担すること。
2. 交付決定を受けた交付金額が採択申請額又は採択申請予定額に達しない場合においても異議を申し立てないこと。
3. 当該施策については、着工から採択決定を受ける期間内においては計画の変更は行わないこと。